

発売開始 「スリーディーきっぷ」

全線開業20周年を記念して、連続3日間、全列車乗り放題の企画乗車券が発売されました。有効期間中に限り全線自由に何回でも乗り降りでき、急行列車も利用できます。

発売期間 / H20.9.26 ~ H21.3.29

利用期間 / H20.10.1 ~ H21.3.31

有効期間 / 使用開始日から連続した3日間
運賃 / 大人1人5,000円 小児2,500円

発売箇所 / 内陸線鷹巣駅・合川駅・米内沢駅・阿仁前田駅・阿仁合駅・角館駅・本庄商店(上檜木内)・中央商会(松葉)・西木温泉クリオン(西明寺)

〔郵送申込方法(郵送で購入される場合)〕

現金書留のみ受付します(1枚5,000円)返信用封筒(簡易書留で返信します)に住所、氏名を明記の上、送料分の切手を貼り付けて同封してください。スリーディーきっぷのサイズは、縦7cm×横15cm(定形封筒可)で送料は430円(簡易書留350円、切手代80円)です。

お申し込み先

〒018-3321 北秋田市松葉町3-2

秋田内陸線 鷹巣駅

☎0186-63-0643

「道の駅あに」で企画切符が購入できます

比立内駅の無人駅化に伴い企画切符の購入ができませんでしたが、利用者の皆さんから多くの購入要望をいただき、企画切符を「道の駅あに」で発売開始しました。

発売箇所 道の駅あに

発売開始日 10月6日

取り扱いするきっぷの種類

ホリデーフリーきっぷ(A・B・全線)

スリーディーきっぷ/ギフト回数券

お問い合わせ先

秋田内陸縦貫鉄道株式会社

☎0186-82-3231

FAX0186-82-3793



西鷹巣～小ヶ田間で

地域一丸となった乗車促進への取り組みが求められている内陸線

このトーク以降、存続に対する危機感を強く持った地域住民や団体の確保、観光その他の地域間交流の促進並びに交通に係る環境への負荷の軽減を図る観点から地域公共交通の活性化及び再生のための地域における主体的な取り組み及び創意工夫を総合的、一体的かつ効果的に推進し、個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現に寄与することを目的としています。

4月25日、知事との秋田内陸線トークが行われた秋田内陸線車内の出来事。当日は北秋田市と仙北市の地区会場と車内で合計5回のトークが予定されていた鷹巣会場、車内、阿仁会場を終えて、仙北市へ向かう貸し切りのお座敷列車では知事と仙北市民や関係団体との対話が行われていた。列車は咲き急ぐ山桜を車窓に眺めながら上檜木内駅に到着したホームには大勢の乗客が待っていた。よく見ると普段着姿のご老人方が多い。そして5メー

ミニコラム「靴下姿の知事」

トルはあるうと思われる横断幕を掲げている。存続によせる地域の熱い思いが書かれている。存続を知事に訴える地域住民が準備し、知事の乗った列車を待っていたのだ。その後各駅で同様の光景が続く、それに気づいた寺田知事は貸し切り列車を連結している一般車両の乗降ドアに靴下のみままで駆け出してきた。貸し切り列車は目的地以外ではドアが開かない。わずかな停車時間に沿線住民の思いに伝えるためだ。何の躊躇もなく、靴を履いては間に合わない。人と刹那を大切に

秋田内陸地域公共交通連携協議会が発足 内陸線再生支援協議会だより

(問) 同協議会 阿仁支所内 ☎82・2111

存続が課題になっている秋田内陸線。この9月には寺田県知事と岸部市長、石黒仙北市長が協議を行い存続させることで合意しました。存続確定に向けて大きく前進しましたが、今後も利用促進と赤字解消に向け、会社をはじめ地域一丸となって取り組む必要があります。市民の皆様には現状をご理解いただくため、4月からこれまでの同鉄道に関わる動きをご紹介します。

「内陸線トーク」で危機感

新年度早々の4月25日、知事と地域住民による「秋田内陸線トーク」が鷹巣、阿仁、角館の3会場と内陸線車内で行われ、延べ200人が参加しました。知事は「県市も財政負担の限界にあるとして、赤字は解消できないとしても、地域が乗車促進に取り組み安定した基礎数値を確保すべきだ。それが判断材料になる」と述べ、取り組みの強化を求めました。

職員の利用進む

北秋田・仙北両市岸部市長は5月22日、「地元が乗らなければ必要ないと判断される。内陸線は必要不可欠」と述べ、市職員に定期通勤の協力要請を行いました。6月1日からは新たに70人の職員が定期通勤を始めました。

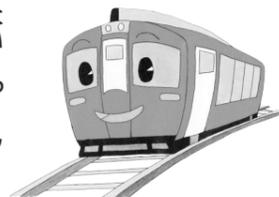
このトーク以降、存続に対する危機感を強く持った地域住民や団

体の確保、観光その他の地域間交流の促進並びに交通に係る環境への負荷の軽減を図る観点から地域公共交通の活性化及び再生のための地域における主体的な取り組み及び創意工夫を総合的、一体的かつ効果的に推進し、個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現に寄与することを目的としています。

これにより84名の市職員が内陸線を利用しており、年間換算では延べ6万人の利用になります。これに仙北市職員の利用を加えると約7万3千人になります。7月末現在における秋田内陸線の乗車実績は、対前年同月比では約9千人増(昨年度1年限りの内陸線回遊バスの実績を除いたものと比較では約1万4000人増)になっています。

市議会も要望書提出

市議会秋田内陸縦貫鉄道存続特別委員会は6月18日中間報告し、内陸線をなくすことは秋田の元気を失うことにつながる「など



ないうつくん

とした存続に関する決議を全会一致で可決しました。同月20日、秋田県知事と議会議長に要望

書を手渡しました。また8月20日知事と議員との意見交換会が中央公民館で開催されました。

地域住民による乗車回数券購入運動は、合川地区自治会167万4千円、阿仁地区自治会236万4千

円のご協力をいただきました。秋田内陸地域公共交通連携協議会が発足

9月9日、知事と北秋田市長、仙北市長による協議で内陸線を残す方向で調整することで一致しました。また同日、北秋田市と仙北市は地域住民生活に不可欠な鉄道やバスをはじめとする公共交通の活性化と再生を図るため、秋田内陸地域公共交通連携協議会を設立し、第1回会議を仙北市の西木温泉ふれあいプラザクリオンで開催しました。

協議会の役割

協議会は平成19年10月1日に施行された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき設置された法定協議会です。この法律は地域住民の日常生活及び社会生

活の確保、観光その他の地域間交流の促進並びに交通に係る環境への負荷の軽減を図る観点から地域公共交通の活性化及び再生のための地域における主体的な取り組み及び創意工夫を総合的、一体的かつ効果的に推進し、個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現に寄与することを目的としています。